

はまにゃんと地元駅前で募集広報活動



はまにゃんと広報活動

自衛隊神奈川地方協力本部市ヶ尾募集案内所（所長 内山一空尉）は、7月4日（月）募集案内所の最寄り駅である東急電鉄田園都市線「市ヶ尾駅」の西口広場にて募集広報活動を行なった。6月24日（金）から実施している神奈川地方協力本部の募集案内強化期間奈川地方協力本に合わせ、当日は神奈川地方協力本部のキャラクター「はまにゃん」が応援に駆け付けた。

自衛隊の夏服に身を包んだ市ヶ尾所の所長と広報官たちは、帰宅途中の高校生たちに積極的に声掛けをし自衛隊をPRした。「はまにゃん」効果もあってか、足を止めてくれる学生達へ、自衛隊の職種は多岐にわたり、パイロットへの道や海外勤務、国際的な活躍ができること、自身の適性を踏まえて勤務が出来ること、男女格差がない給与体系及び福利厚生も充実していること等、具体的な例を示しての説明に努めた。「管理職に興味があります。防衛大学校を受験してみたいです」と学生からの申し出があり、後日事務所に説明することとなった。また就活中の人には、中途採用を実施していることを案内し、フリーライバルや産休・育休の制度が整っていることもアピールした。

市ヶ尾募集案内所は「事務所のある地元駅前での広報活動は、自衛隊のPR及び自衛官の仕事への理解を深める貴重な時間であった。「はまにゃん」の登場もあり、学生達が自衛隊に興味を持つきっかけとなってくれた。今後も地域に根付いた広報活動を継続し、志願者獲得を進めていきたい」としている。

「貴重な体験に興奮」大満足の海自厚木基地見学会



機内見学後、機体前で記念撮影

自衛隊神奈川地方協力本部市ヶ尾募集案内所（所長 内山一空尉）は、7月8日（金）海上自衛官志望者6名を海上自衛隊厚木基地に招待した。今回の基地見学は、「P-1哨戒機の機内見学」と「搭乗員操縦訓練体験」という貴重な内容が盛り込まれた見学会であった。

午前中のメインは、第3航空隊の支援によるP-1哨戒機の機内見学だった。事前に広報資料館でP-1哨戒機の紹介映像を視聴した後に、格納庫で実物を見た見学者達は「予想以上の大きさです！」と驚いていた。また搭乗員から機体の特徴であるレーダーやバルブウインドウ、ソノブイ等の説明を、暑さを忘れ真剣な表情で聞いているP-1哨戒機に、いよいよ搭乗することとなった。搭乗員に支持をされ安全に配慮しながら慎重にタラップを上った。機内では搭乗員達から設備や仕事について説明を受けた。レーダー画面を見ながら航空戦術士から仕事内容の説明を受けたり、実際にコクピットの操縦席に座ったりと特別な時間を過ごした。降機した見学者達は「コクピットの見学や操縦席に座れるとは思っていませんでした」と興奮気味に話してくれた。

午後からは、搭乗員操縦訓練を体験し現役パイロット指南のもと、見学者達は一人ずつ順番に操縦席に座り、実際に操縦桿を握ってレクチャーを受けた。コクピットを模した窓からは、本物さながらの景色が広がり浮遊感も疑似体験できた。体験した見学者からは「航空学生の試験を受けてみようと思います」と嬉しい言葉があった。

操縦体験後は、社会人経験者の隊員や入隊間もない隊員との懇談機会が設けられ自身が担当している仕事内容や、海上自衛官のリアルな勤務、休暇、給料、海上自衛官を志した理由などが語られた。転職で自衛官を目指している見学者達が多かったため「社会人10年目からの転職に不安はなかったですか」や「先輩が年下の方の時、どんな接し方をしていますか」等、自身の立場に照らした質問が、現役隊員達は真摯に言葉を選びながら丁寧に回答してくれた。年齢が近い隊員達の存在は、入隊への不安解消の一助にもなった。

最後に「海上自衛隊で待っています」と声を掛けられ見送られると、見学者達は手を振って応えていた。

市ヶ尾募集案内所は「部隊の支援を受けP-1機内見学や操縦訓練体験ができた貴重な見学会だった。見学者達が入隊への意志を固めたり、試験への挑戦を宣言してくれたりと大きな成果があった。今後も部隊見学等を通して、自衛隊のPRと入隊者獲得に努めていきたい」としている。



広報資料館見学



発動機整備場にて隊員と懇談



搭乗員からP-1機体の説明を受ける